

by the officers of the Los Angeles Section of the American Institute of Electrical Engineers to meet on our campus at the Athenaeum and present to me the certificate of honorary membership in the Institute of Electrical Engineers of Japan.

Though they had short notice concerning the time of Dr. Oyama's visit, and there were many conflicting meetings-one a big celebration by the Southern California Edison Company and the visit occurred when there were no regular Institute meetings scheduled, the dinner was indeed a very happy expression of appreciation on the part of my friends as well as myself for this distinct recognition given me by the electrical engineers of Japan. There were about thirty-five present. In addition to the representation of the AIEE, there were on hand Dean Franklin Thomas of California Institute of Technology and senior past president of the American Society of Civil Engineers, the vice president of the Pasadena Chamber of Commerce, and the vice president of the Board of City Directors of Pasadena, acting in place of the mayor. Several of these persons expressed to Dr. Oyama their appreciation for the fact that Japanese engineers recognized a citizen of Pasadena in the way you have done. Altogether I was quite overwhelmed at the attention so hurriedly prepared—for this event, which I, of course, will never forget.

As we enjoyed that evening, my thoughts turned back to the very interesting two months I spent in Japan in the summer of 1947, and in particular to the evening meeting of the Tokyo engineers at Tokyo University at which Dr. Coolidge and I made a couple of impromptu comments concerning engineering. Also, I remember very well indeed the reception after the meeting at which you and Dr. Oyama were present. Mrs. Sorensen and I still highly treasure the token presentation of six silver coffee spoons given me during that very pleasant evening.

No doubt Dr. Oyama will report to you more fully of the events of the evening and will show you with pleasure the little symbolic key to the City of Pasadena, presented to him by Mr. Clarence Winder, a very able electrical engineer who is a member of the Pasadena Board of City Directors.

I sincerely hope and fully expect that this indication of the tie between the Institute of Electrical Engineers of Japan and the American Institute of Electrical Engineers will produce a strengthening of the now very strong and ever-growing friendly relations between the United States and Japan.

Sincerely yours,
R. W. Sorensen

昭和 25 年度事務及び事業報告

昭和 25 年 4 月から 26 年 3 月
に至る間に於て行つた事務及び事業
の概要を報告する。

1. 会 員

名譽員の異動 昭和 25 年 12 月
11 日, 名譽員長岡半太郎博士逝去,
26 年 1 月 16 日, R. W. Sorensen
教授を名譽員に推薦した。

正, 准員の異動は次の如くである。

	正 員	准 員	合 計
再登録	(+) 109	0	(+) 109
入 会	(+) 402	(+) 234	(+) 636
轉出入	(+) 142	(-) 142	0
退 會	(-) 220	(-) 44	(-) 264
死 亡	(-) 35	(-) 3	(-) 38
除 名	(-) 673	(-) 175	(-) 848
差 引	(-) 275	(-) 130	(-) 405

26 年 2 月 8 日前會長本野 享博
士が逝去された。

事業維持員の異動 は次の如くで
ある。

	社 数	口 数
入 会	16	28
退 會	*85	88
差 引 減	69	60

* 會費滞納に依る整理退會 53 社を含む

期末會員數 26 年 3 月末現在の
會員數は次表の如くで, 前期末に比
し 490 名を減少した。

	25年3月末	26年3月末	増 減
名譽員	8	8	0
正 員	9,940	9,665	(-) 275
贊助員	6	6	0
維持員	335	250	(-) 85

准 員	1,795	1,665	(-) 130
合 計	12,084	11,594	(-) 490

正員中「特別會費會員」は 273 名, 「終身會
員」は 679 名である。

2. 會 合 數

本期間の會合數は 549 回で, 前期
513 回に比し 36 回を増加した。

總 會	1 回
役 員 會	5 回
理 事 會	14 回
編修委員會	12 回
賞金委員會	2 回
技術委員會	106 回
電氣規格調査會	203 回
研究委員會	64 回
電氣技術普及會	21 回
ハンドブック刊行會	6 回
同 編修委員會	12 回
通信教育會	103 回
合 計	549 回

3. 規程の改正

通信教育會規則の改正 (25 年 7 月)

(1) 1 號委員 5 名を 15 名, (2) 理事 8 名以内を 12 名以内とした。

4. 米國電氣學會との 友交關係復活

本會と米國電氣學會 (AIEE) との間には、多年に亘り親善な友交關係を保持して來たが、今次の戦争の勃發とともにこの關係は杜絶してしまつた。本會は一日も早くその復活を望み交渉を續けていたが、25 年 12 月復活するに至つた。尙本件につき盡力された Frank A. Polkinghorn 氏, Gerard Swope 氏に感謝狀を贈呈した。

5. 功績の表彰

25 年 4 月通常總會に於て下記諸君に賞金を贈呈した。

- 第 25 回淺野博士獎學祝金 鈴木重夫君
- 第 9 回大同電力記念賞金 富山順二君
- 第 6 回電氣學術振興賞 水谷欣一君
- 進歩賞 福田節雄君
- 改良賞(連名) 廣瀬健吾君
- 今井一郎君
- 論文賞 金谷光一君
- 文献賞 後藤以紀君

9. 大會・講演會

全國大會 終戦後最初の全國大會である第 24 回連合大會を 4 月 28, 29, 30 日の 3 日間東京大學内に開いた。又各支部に於ても支部大會を開いた。これを表に示すと次の如くである。

	日数	講演數	
		特別	一般
全 國	3	3	416
東 京 支 部	2	2	91
關 西 〃	2	3	166
九 州 〃	1	0	38

東 北 〃	2	0	49
東 海 〃	2	0	67
中 國 〃	2	2	23
北 海 道 〃	1	0	25
四 國 〃	1	0	43

合 計	16	10	918
-----	----	----	-----

講演會等 本期間支部で開いた講演會, 講習會, 見學會は 88 回で前期 71 回に比し 17 回を増加した。支部別に示すと次の如くである。

	講演會	講習會	見學會	合計
東 京 支 部	9	1	1	11
關 西 〃	6	2	2	10
九 州 〃	2	0	2	4
東 北 〃	16	1	4	21
東 海 〃	7	0	0	7
中 國 〃	13	0	2	15
北 海 道 〃	5	0	1	6
北 陸 〃	4	0	3	7
四 國 〃	5	0	0	5
茨 城 〃	2	0	0	2

合 計	69	4	15	88
-----	----	---	----	----

7. 雜誌及び論文集

雜誌 本期間は下記 12 冊を發行した。

卷・號	年・冊	發行年月	本文頁數
70・737	25 年 3	25 年 4	36
738	4	5	34
739	5	6	54
740	6	7	44
741	7	8	48
742	8	9	39
743	9	10	38
744	10	11	42
745	11	12	42
746	12	26 年 2	42
71・747	26 年 1	2	43
748	2	3	46

「發行年月」は實際の年月を示した。

以上 12 冊の總頁數(本文)は 508 頁(外に會告, 廣告等 98 頁)で前期 469 頁(13 冊)に比し 39 頁を増加

した。又 1 冊當りの頁數は 42 頁で前期 36 頁に比し 6 頁を増加した。

種類別の頁數を示すと次の如くである。

	本期頁	前期頁	増 減
會長挨拶	2	2	0
説 苑	7	2	(+) 5
資料論文	242	247	(-) 5
討議記事	26	0	(+) 26
書面討論	2	0	(+) 2
講 演	15	15	0
報 告	21	70	(-) 49
技術綜説	86	65	(+) 21
學界時報	58	40	(+) 18
寄 書	6	1	(+) 5
製品紹介	18	10	(+) 8
ニュース	2	0	(+) 2
會 報	23	17	(+) 6

本期間の新設欄は「ニュース」(特許紹介「JIS 紹介」)の各欄で、ニュースは 26 年 2 冊から初められ、他は 4 冊から初められる。

論文集 は 1 卷 3, 4 號, 2 卷 1, 2, 3 號の 5 冊を發行した。

論文集は年 4 回發行の建前で初められたものであるが、論文の掲載が間に合わないのて年 6 回發行することに改め、3 卷から實行、これに伴つて雑誌と論文集に次の如き變革を加えることとした。

(1) 論文の全文は、讀者層の廣いものは雑誌に、その他は論文集に掲載する。

(2) 従來雑誌に掲載していた 1 頁程度の“要旨”を 400 字に短縮し、それに依つて生ずる頁を一般會員に興味ある記事に當てる。

(3) 論文集に英文の内容梗概を附することに變りはないが、全文が雑誌に出た論文の英文内容梗概も論文集に掲載する。

8. 出 版

電氣工學ハンドブック 前年來的

繼續事業である本書の出版については、日立製作所の保証のもとに第一銀行から融資を受けられることとなり、直接出版の見透しがついたので25年7月「電気工学ハンドブック刊行会」を設置して出版事務を掌り、「電気工学ハンドブック編修委員会」は編修に専念することとした。

11月に予約出版を發表し、12月末の締切までに2萬数千部の申込があつた。この申込数は豫期以上のものであつたので、頁数の増加(100餘頁)、紙代を初め諸係の非常なる増嵩にも拘わらず、予約額を以つて頒布出来ることとなつた。しかし計期的な大出版となつたので、鋭意進行中であるが、出版期日を約3ヶ月延引するの已むなきこととなつた。尚第一銀行からの借入金300萬圓は完済した。

電気工学ポケットブック・ジュニア版 本會編集、オーム社發行の本冊は、25年5月に出版を完了した。

電気工學年報・昭和25年版 25年7月に出版。

電熱工學便覽 本會編集、電気書院發行の本冊は25年11月に出版した。

工場能率ブック 電気技術普及會編集の本冊は25年12月初版、26年1月に再版を發行した。

標準規格 電気書院から下記4種を發行した。

- (1) ネオン管變壓器 (JEC-48) (再版 25年10月)
- (2) ネオン電線 (JEC-53) (再版 25年10月)
- (3) 交流積算電力計 (JEC-115) (25年11月)
- (4) 電気機器一般 (第5章・温度) (JEC-86) 改訂別冊 (26年3月)

9. 電 氣 規 格

電気規格調査會本期間の會合数は203回で前期196回に比し7回を増

加した。

新設委員会 委員会を新設して調査を開始したものは次の通りである。

- (1) 塩化ビニール電線委員会 25年7月、日本電気協會と共同設置)
- (2) 低壓碍子抜取試験小委員会 (25年11月)
- (3) 温度計標準特別委員会 (26年2月)

委員会の解散 調査を終了し解散したものは次の通りである。

- (1) 電気機器温度上昇限度標準特別委員会 (25年11月)

規格の制定及び改訂 本期間に於て制定又は改訂した規格は次の20種である。この中(9)乃至(12)は近く確定の豫定であり(13)乃至(20)は日本工業標準(JIS)の原案として報告したものである。

- (1) 交流積算電力計の一部訂正 JEC-115 (1948) (6月)
- (2) 電気機器一般 (第5章・温度) の改訂 JEC-86 (1950) (9月)
- (3) 同期機 (第5章・温度) の改訂 JEC-114 (1950) (11月)
- (4) 誘導機 (第5章・温度) の改訂 JEC-37 (1950) (11月)
- (5) 直流機 (第5章・温度) の改訂 JEC-54 (1950) (11月)
- (6) 電気機器一般の英文案 (12月)
- (7) 同期機の英文案 (12月)
- (8) 誘導機の英文案 (12月)
- (9) 電気鐵道車輛用主電動機 JEC-122
- (10) 一重鉛被防蝕ケーブル JEC-121・A
- (11) 鋼帶鍍裝防蝕ケーブル JEC-121・B
- (12) 二重鉛被防蝕ケーブル JEC-121・C
- (13) 街灯スイッチ (5月)
- (14) ねじ込みプラグ (8月)
- (15) 配線器具輸出規格 (10月)

- (16) 指示電気計器 (10月)
- (17) 配電盤用計器寸法 (10月)
- (18) カットアウト (11月)
- (19) 碍子試験方法 (11月)
- (20) 電気機器一般事項 (26年3月)

廢止規格 下記規格を廢止した。

- (1) 電気機器の絶縁耐力試験電壓暫定規格 JEC-86 Z, 35 Z, 37 Z, 54 Z (1944) (9月)
- (2) 電気機器の温度上昇限度 JEC-116 (1947) (9月)

規格出版 上記出版の部に記載の如く4種を電気書院から出版した。

調査中の規格 調査中の規格は次の通りである。

- (1) 静止誘導器 (改訂)
- (2) 鐵塔及び鐵柱 (改訂)
- (3) 斷路器
- (4) 600 V ビニール電線
- (5) 指示電気計器 (改訂)
- (6) 套管
- (7) 3 kV 以上の避雷器
- (8) 熱電溫度計 (改訂)
- (9) 抵抗溫度計 (改訂)
- (10) 電気標準用語 (改訂)
- (11) ツイストロック
- (12) 分電盤ユニットスイッチ
- (13) 水車英文案
- (14) 特別高壓架線金具
- (15) 特別高壓ピン碍子
- (16) 低壓碍子抜取試験方法
- (17) 電力線搬送用結合蓄電器
- (18) 同ブロッキングコイル

日本工業標準原案作成受託 本年度工業技術廳より依託を受けたものは下記の4種である。

- (1) 熱電溫度計
- (2) 抵抗溫度計
- (3) 低壓ピン碍子抜取試験法
- (4) 電気機器一般

10. 調査及び研究

技術委員会 の部門、専門、特別各委員会の會合数は106回で前期118回に比し12回を減じた。

新設委員会 委員会を新設し調査に着手したものは次の通りである。

(1) 水銀整流器専門委員会 (26年1月)

調査完了事項 調査完了の旨報告のあつた事項は次の通りである。この他各部門委員会に於ては「電気三學會東京支部連合大会講演論文の審査」並に「文部省科學研究報告書の審査」を行つた。

- (1) 短絡時に於ける變壓器巻線の機械的強度について (電學誌 25年9月號發表)
- (2) 板封じ真空管の試作及び應用研究 (26年1月號發表)
- (3) 短絡状態に於ける變壓器の溫度經過 (印刷物配布)
- (4) 電気鐵道車輛故障対策 (第三集) (印刷物配布)
- (5) 演算子法公式表 (近く發表)
- (6) 海外真空管の最近の狀況 (〃)
- (7) 國內真空管の尖端技術調査 (〃)
- (8) 水銀整流器の實態調査 (〃)
- (9) 珪素鋼帶高溫燒鈍に關する研究 (〃)
- (10) 珪素鋼板磁氣試驗裝置比較試驗 (〃)
- (11) 點孤子の研究 (〃)

調査中の主な事項 は次の如くである。

- (1) 新制大學々課程
- (2) 絶對單位使用に伴う計測器に施すべき處置
- (3) 真空管試驗法の改良に關する事項
- (4) 今後の電車
- (5) 食品關係工業に於ける電力應用
- (6) 電気材料に關する我が國の現状
- (7) 變壓器試驗規格案
- (8) 變壓器運轉指針案
- (9) 變壓器無負荷突入電流
- (10) 放電裝置應用部面の現状

- (11) 水銀整流器による直流送電
- (12) 電鐵用變壓器遠方制御
- (13) 點孤子の試驗法
- (14) 點孤子の機構
- (15) 珪素鋼板磁氣試驗裝置比較試驗
- (16) 米國に於ける標準磁氣試驗方法
- (17) 珪素鋼板に關する内外文献

關西支部 研究委員会 「妨害電波研究委員会」及び「電力網異常現象研究委員会」の本期間の會合数は24回で前期33回に比し9回を減じた。次の事項の調査を完了した。

- (1) 各種高周波加熱装置からの漏洩電界に關する調査並に測定 (10月三學會關西支部大會發表)
- (2) 上記漏洩電界を軽減するための遮蔽裝置並に電力線濾波器に關する測定及び調査 (同上)
- (3) 高壓電力線添架通信ケーブル異常電壓及びその防護 (印刷物配布)
- (4) 今里を中心とするケーブル送電網の異常電壓の測定 (近く發表)
- (5) 電車線短絡事故の檢出裝置の完成 (印刷物配布)

又次の事項について調査中である。

- (1) 漏洩電界遮蔽及び電力線濾波器の標準的方法の確立
- (2) 各種人工雜音の測定及び調査
- (3) 直列蓄電器に關する實測結果の理論的檢討
- (4) 送電線に沿う進行波
- (5) 異常電壓に關する現場を對象とする參考書の作成

電蝕防止研究委員会 本委員会は電気通信學會、日本電気協會、水道協會、日本ガス協會と本會が共同設置のものであるが、本年度に於てその組成團體に鐵道電化協會が参加した。本期間に於ける會合数は31回である。

需給新計器委員会 日本電気協會と

連合して11月設置し調査に着手したもので、調査事項は次の通りで着々進行している。

- (1) 新料金制の計測面から見た調査研究
- (2) 前號の結果に基づき使用する計器の種類決定
- (3) 上記計器に對する規格制定上の基礎的資料の作成 (製造面、使用面、取締面)

11. 電気知識普及

電気技術普及會の本期間の會合数は21回で前期31回に比し10回を減じた。前期來「電力使用合理化の解説」の編修を進めていたが、25年12月「工場能率ブック」と題してこれを出版した。電力使用合理化の解説と數多の實例を集録したもので好評を博している。

12. 通信教育

前期來準備を進めていた「電気學會大學講座」は、25年4月に「送配電工学」12月に「電気理論」、26年3月に「電気機械工学」をそれぞれ開講した。つづいて「電気鐵道」「發電工学」「電気磁氣測定」「電力應用」「電気材料」を開講する準備を進めている。

發行した教科書は送配電工学の送電編 1, 2, 3 卷及び配電編 電気理論の電気磁氣學 電気機械工学の變壓器

である。

これ等の教科書は單行本としても頒布し、新制大學の教科書としても採用されている。

なお本講座は26年3月31日 文部大臣から認定を受けた。

13. 日本學術會議關係

(1) 25年12月に行われた日本學術會議會員の第2回選舉に對して、

5月、選挙有資格者豫備調査票2,871通を提出し、8月には通信、照明、電波各會と連合して全國區6名、地方區6名の候補者を推薦した。選挙の結果推薦候補者中から全國區駒形作次君、八木秀次君、關東地方區大山松次郎君が當選した。

尙正員梶浦浩二郎君、鳥山四男君が當選した。

(2) 6月、日本學士院會員候補者4名を推薦した。

(3) 2月、學術會談中央選挙監理會委員候補者として會長丹羽保次郎君、副會長石川潔君を推薦した。

(4) 文部省科學研究費等に對する報告書、502件の審査依頼があり、通信、照明、電波各會からも應援を受け12月に報告をした。

(5) 9月、26年度文部省科學研究費等分科審議會委員候補者6名の推薦依頼あり、4學協會副會長中から石川潔君、阪本捷房君、鳥山四男

君、小林正次君、福田勝治君、溝上健君を推薦した。

14. 其 の 他

(1) 25年5月、副會長更任に伴い日本工學會評議員大西定彦君を石川潔君に変更した。尙石川君は工學會理事に就任した。

(2) 7月、極東軍工兵司令部から顧問技術者推薦の依頼があつたので、伊藤龍平、海野謙四郎、後藤清太郎、福田勝治、堀貞治、毛利澄夫宮本茂業の7氏を推薦した。

(3) 7月、定款改正(25年4月通常總會決定、會費増額)の認可があつた。

(4) 本會、通信、照明、電波4會の連絡委員會設置を提案し賛同を得たので、25年10月第1回會合を開き、爾來隨時會合している。

(5) 26年3月24日舉行の電氣デーの主催者に參加した。

庶務幹事 入江富士男(九大)
會計幹事 藤島壯太郎(九州電力)
評 議 員 西村博(九州電力) 前
田道生(西日本重工) 譽田敏雄
(熊本大) 許斐貢(九州工大)
牛尾達也(三池鐵業所)

東 北 支 部

支 部 長 六角英通(東北大)
庶務幹事 上野幸至(東北電力)
會計幹事 八田吉典(東北大)
評 議 員 館内三郎(東北電力)
五十嵐悌二(東北大通研) 岡田
幸雄 山形大)

東 海 支 部

支 部 長 中村 宏(中部電力)
庶務幹事 福西道雄(同)
會計幹事 横尾秋三(名古屋市電)
評 議 員 新宮行太(日本碍子)
竹上武雄(名工大) 畠中耕作(中
部電力) 手島顯一郎(中部電力)
平岡文雄(高岳)

中 國 支 部

支 部 長 森脇小祐(中國電力)
庶務幹事 川野 董(廣島大)
會計幹事 桑山富士雄(電 試)
評 議 員 深山好美(中國電力)
小島濂(通産局) 吉村尋徳(中
國電力) 辻卯一郎(廣島放協)
山本彦熊(中國電力)

北 海 道 支 部

支 部 長 橋本篤四郎
(北海道電力)
庶務幹事 石田光明(同)
會計幹事 黒部貞一(北大)
評 議 員 高橋克則(北海道電力)
酒井陽桑(通産局) 石井榮雄
(北海道電力)

北 陸 支 部

支 部 長 金井九兵衛(北陸電力)
庶務幹事 波田 敏雄(金澤大)
(246頁につづく)

役 員 改 選 報 告

會長丹羽保次郎、副會長尾本義一渡邊寧、總務理事阪本捷房、會計理事宮本茂業、編修理事山田太三郎、岡村總吾、調査理事德田巽の諸君が26年4月の通常總會を以て退任となるので改選の結果下記の諸君が當選した。

會 長 尾本義一(東工大)
副 會 長 駒形作次(電 試)
同 七里義雄(阪 大)
總務理事 鈴木重夫(電 試)
會計理事 篠原幹興(東 芝)
編修理事 木村久男(三菱電機)
同 和田重暢(東 芝)
調査理事 青木敏男(電 試)
本選挙の投票總数は2,803票、投票率32%である。

各支部役員の當選者は次の通りである。

東 京 支 部

支 部 長 德田 巽(東北電力)

庶務幹事 飯島健一(東 大)
會計幹事 永井勝三(東 芝)
評 議 員 青木敏男(電試) 荒川
康夫(公益委) 尾佐竹徇(東大)
岡村總吾(東大) 岡村忠雄(東
芝) 甲斐弘道(富士電機) 清宮
博(通研) 只野文哉(日立中研)
宮本慶己(電試) 吉岡俊男(資
源廳)

關 西 支 部

支 部 長 大中臣輔(三菱電機)
庶務幹事 加藤又彦(同)
會計幹事 七里清一(京阪神電鐵)
評 議 員 上西亮二(島津) 佐野
保(關西電力) 田中郁雄(住友)
小川春吉(神戸大) 大森武司(日
新電機)

九 州 支 部

支 部 長 山口良哉(三菱電機)

昭和 25 年度決算報告

(1) 一般會計

科 目	收 入	科 目	支 出
會 費	3,772.58495	總 務 費	682.61568
基 本 財 產 子 入 布 入 入 金 入 省 金 計	27,201.56	雜 誌 支 部 費	4,385.15916
及 預 告 收 入	1,362.80000	賞 金 費	452.50000
雜 誌 收 入	203.65800	諸 會 費	21.18204
雜 誌 收 入 特 別 積 立 金	8,255.00		14,000.00
雜 誌 收 入 特 別 積 立 金	957.37		
雜 誌 收 入 特 別 積 立 金	180,000.00	合 計	5,555.45688
雜 誌 收 入 特 別 積 立 金	5,555.45688		

(2) 事業維持員會費

科 目	收 入	科 目	支 出
線 越 金	202.34923	總 務 費	387.31500
會 費	896.71600	規 規 費	300.00000
		電 氣 調 查 技 術 會 費	285.99300
合 計	1,099.06523	合 計	973.30800
		收 支 不 足 金	125.75723
		次 年 度 繰 越	

(3) 電氣規格調查會費

科 目	收 入	科 目	支 出
電 氣 學 會 支 出 金	300.00000	總 務 費	157.31900
出 版 物 預 金 利 子	179.54900	調 查 費	485.02300
工 業 技 術 補 助 金	2,500.00	規 格 購 入 費	100.83750
寄 附 金	107.00000		
調 查 備 用 金	10,000.00		
合 計	144,130.50	合 計	743.17950

(4) 電氣技術普及會費

科 目	收 入	科 目	支 出
線 越 金	227.11544	總 務 費	26.91400
寄 附 金	50.00000	調 查 費	84.26200
出 版 收 入	586.96810	出 版 費	808.40050
豫 金 利 子	1.63177		
合 計	865.71531	合 計	919.57650
		收 支 不 足 金	53.86119
		次 年 度 繰 越	

(5) 出版會計

科 目	收 入	科 目	支 出
論文集收入	261.36000	總 務 費	514.00000
年報收入	416.80850	論 文 費	619.25251
圖書收入	1,987.31630	出 版 費	678.86312
		年 報 出 版 費	1,283.95500
合 計	2,665.48480	合 計	3,096.07063
		收 支 不 足 金	430.58583
		次 年 度 繰 越	

(6) 調查委託費

科 目	收 入	科 目	支 出
線 越 金	110.78518	調 查 費	473.12100
助 金	418.27161		
附 入	2,821.00	合 計	473.12100
合 計	531.87779		
		收 支 殘 餘	58.75679
		次 年 度 繰 越	

(7) 御下賜金・委託金・寄附金・利子

科 目	收 入	科 目	支 出
(1) 御 下 賜 金			
線 越 金	84.07	次 年 度 繰 越 金	84.07
利 子	0		
合 計	84.07	合 計	84.07
(2) 池 田 資 金			
線 越 金	1,968.19	次 年 度 繰 越 金	2,394.55
利 子	426.36		
合 計	2,394.55	合 計	2,394.55
(3) 大 井 資 金			
線 越 金	1,177.86	次 年 度 繰 越 金	1,363.90
利 子	186.04		
合 計	1,363.90	合 計	1,363.90
(4) 淺 野 資 金			
線 越 損 金	77.52	祝 金	1,000.00
利 子	922.48		
入 金	155.04		
合 計	1,000.00	合 計	1,000.00
(5) 廣 部 資 金			
線 越 金	601.37	次 年 度 繰 越 金	693.97
利 子	92.60		
合 計	693.97	合 計	693.97

科 目	收 入	科 目	支 出
(6) 橋 本 資 金			
繰越金	3,393.93	元金繰入	1,860.25
利子	1,494.86	次年度繰越金	3,028.54
合 計	4,888.79	合 計	4,888.79
(7) 鳥 瀬 資 金			
繰越金	442.47	次年度繰越金	442.47
利子	0		
合 計	442.47	合 計	442.47
(8) 岸 資 金			
繰越金	26.37	次年度繰越金	26.37
利子	0		
合 計	26.37	合 計	26.37
(9) 岩 垂 資 金			
繰越金	151,820.69	元金繰入	22,776.25
利子	19,641.00	研究費補助	10,000.00
		次年度繰越金	138,685.44
合 計	171,461.69	合 計	171,461.69
(10) 大 同 電 力 資 金			
繰越金	260.00	賞 金	1,000.00
利子	1,260.00	次年度繰越金	520.00
合 計	1,520.00	合 計	1,520.00
(11) 日 立 資 金			
繰越金	2,113.56	次年度繰越金	2,113.56
利子	0		
合 計	2,113.56	合 計	2,113.56
(12) 關 西 共 同 火 力 資 金			
繰越金	1,189.32	次年度繰越金	1,719.32
利子	530.00		
合 計	1,719.32	合 計	1,719.32
(13) 富 士 電 力 資 金			
繰越金	38.75	次年度繰越金	806.75
利子	768.00		
合 計	806.75	合 計	806.75
(14) 京 濱 電 力 資 金			
繰越金	65.04	次年度繰越金	2,365.04
利子	2,300.00		
合 計	2,365.04	合 計	2,365.04
合 計			
繰越金	163,104.10	支 出	36,636.50
利子	27,776.38	次年度繰越金	154,243.98
合 計	190,880.48	合 計	190,880.48

(8) 貸 借 對 照 表

(昭和 26 年 3 月 31 日)

負 債 の 部		資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
御下賜金	200.00	有價証券	573,223.30
基本財産	166,078.90	信託預金	356,567.02
委託金	20,417.64	定期預金	10,000,284.07
寄附金	590,799.80	銀行預金	7,615,064.23
繰越金	338,758.00	振替貯金	417,598.06
特別積立金	400,389.12	現 金	104,750.61
調査準備金	117,822.38	受取手形	51,000.00
退職積立金	102,508.89	備 品	6,757.40
圖書館勘定	8,972.39	假 拂 金	10,563,253.11
支部勘定	61,009.60	繰越損金	484,447.02
假受金	28,365,988.10		
合 計	30,172,944.82	合 計	30,172,944.82

(9) 缺 損 處 分 の 件

死亡、退會、除名による未納會費にして収入の見込なき下記金額を缺損處分とす。

正員會費	527,628 圓
准員會費	82,581 圓
合 計	610,209 圓

(10) 第 二 封 鎖 信 託 預 金 及 び 舊 外 地 社 債 處 分 の 件

- (1) 橋本資金による富士信託第二封鎖預金 8,085 圓 25 錢を切捨てること。
この結果本資金の元金 31,225 圓が 23,139 圓 75 錢となるが、本資金の利子より 1,860 圓 25 錢を繰入れ、元金を 25,000 圓とすること(元金切捨 6,225 圓)
- (2) 岩垂資金による富士信託及び朝日信託第二封鎖預金 262,776 圓 25 錢を切捨てること。
この結果本資金の元金 500,000 圓が 237,223 圓 75 錢となるが、本資金の利子より 22,776 圓 25 錢を繰入れ、元金を 260,000 圓とすること。(元金切捨 240,000 圓)
- (3) 鳥瀆資金による第 48 回滿鐵社債 2,000 圓(額面 2,000 圓)を切捨てること。
この結果本資金は消滅することとなるを以つて、基本財産 2,000 圓を本資金に振替えること。(基本財産切捨 2,000 圓)
- (4) 岸資金による第 2 回朝鮮窒素社債 9,950 圓(額

面 10,000 圓) を切捨てること。

この結果本資本の元金 10,085 圓が 135 圓となるを以つて基本財産 9,950 圓を本資金に振替え且本資金元金 85 圓を切捨てること(基本財産切捨 9,950 圓)

(5) 基本財産による朝日信託第二封鎖預金 8,325 圓 36 錢を切捨てること。

(6) 基本財産による第 48 回滿鐵社債 15,000 圓(額面 15,000 圓)及び第 2 回朝鮮窒素社債 9,950 圓(額面 10,000 圓)を切捨てること。

(3)(4)(5)(6) による基本財産切捨額 45,225 圓 36 錢

以上切捨てる信託第二封鎖預金及び社債の全部又は一部が將來復活した時は夫々の資金及び基本財産に繰入ること。

昭和 25 年度通信教育會計決算報告

科 目	收 入	科 目	支 出
入學金及費	4,391,094.60	出 版 費	3,415,381.33
預金利子	6,417.79	編 修 費	359,239.00
雜 收 入	21,346.50	指 導 費	54,348.00
		指 導 費	12,164.00
		周 知 費	174,702.50
		事 務 費	755,212.50
合 計	4,418,858.89	合 計	4,771,047.33
		收 支 差 引	352,188.44
		缺 損 金	1,008,291.61
		前 期 缺 損 金	1,360,480.05
		合 計	
		次 年 度 繰 越	

貸 借 對 照 表

(昭和 26 年 3 月 31 日)

負 債 の 部		資 産 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
寄 附 金	254,000.00	銀 行 預 金	664,775.20
借 入 金	1,800,000.00	振 替 貯 金	9,933.50
假 受 金	8,674.00	現 金	27,485.25
差 金	1,361,000.00	商 品	650,000.00
		未 收 金	711,000.00
		缺 損 金	1,360,480.05
合 計	3,423,674.00	合 計	3,423,674.00

昭和 26 年度收支豫算

(1) 一 般 會 計

科 目	收 入	科 目	支 出
會 費	4,352,000.00	總 務 費	976,000.00
基本財産及子入	233,000.00	雜 誌 費	5,189,000.00
預金利子	1,628,000.00	支 部 費	493,000.00
廣告収入	278,000.00	大 會 費	100,000.00
雜誌收入	2,000.00	大 會 賞 金 費	96,000.00
雜誌特別立	400,000.00	話 會 費	14,000.00
線文補助	180,000.00	豫 備 費	205,000.00
合 計	7,073,000.00	合 計	7,073,000.00

(2) 事 業 維 持 員 會 費

科 目	收 入	科 目	支 出
繰 越 金	125,757.23	總 務 費	315,000.00
會 費	1,365,000.00	電 氣 規 格 費	550,000.00
		電 氣 規 劃 費	384,800.00
		技 術 會 費	240,957.23
合 計	1,490,757.23	合 計	1,490,757.23

(3) 論 文 集 出 版 費

科 目	收 入	科 目	支 出
頒 布 收 入	266,000.00	編 修 費	93,000.00
廣 告 收 入	117,000.00	印 刷 費	504,000.00
繰 入 金	237,500.00	配 布 費	18,500.00
		雜 費	5,000.00
合 計	620,500.00	合 計	620,500.00

昭和 26 年度通信教育會計豫算

科 目	收 入	科 目	支 出
學 費 收 入	15,296,000.00	教 材 出 版 費	9,696,000.00
預 金 利 子	6,000.00	指 導 費	1,797,000.00
雜 收 入	80,000.00	業 務 費	1,440,000.00
		管 理 費	2,100,000.00
		豫 備 費	349,000.00
合 計	15,382,000.00	合 計	15,382,000.00